



確かな学力の向上をめざして【9月】

■校内研究の充実と授業改善のポイントについて

校内研究は、授業改善を通して、「教師の授業力向上」、「子どもの学力向上」、「学校の教育力向上」を目指して行います。そのため、第1回中部地区小・中学校研究主任等研修会では、校内研究の充実に向けて、「分析する」をキーワードに、全国学力・学習状況調査の「誤答分析」をもとに授業改善のポイントを探る研修を行いました。



まずは「校内研究をチェック！」

- ①研究主題と学校教育目標につながりがある
- ②めざす子ども像が明確である
- ③仮説に、手立てや期待される子どもの姿が示されている
- ④研究を評価する時期や方法が示されている
- ⑤研究主題を全職員が理解している
- ⑥全職員が意欲的に研究に取り組んでいる
- ⑦研究の計画や立案などを複数の教員で進めている
- ⑧子どもの現状把握・現状分析を定期的に行っている
- ⑨1学期までの研究に関わる反省を実施した
(委員会、アンケート等)
- ⑩授業研究会の成果が日々の授業に生かされている

大切なのは「現状把握・現状分析」

校内研究によって子どもに力が付いているのか、子どもの学力現状を把握・分析することが、校内研究の評価につながります。

- 身に付けなければならない力は？
- その力は身に付いている？
- その根拠は何？
- 身に付いたのは何が良かったから？
- 身に付かなかったのは何が課題だから？

授業研究会を線で結び、線から面〈職員全体+日々の授業〉へ広げていきましょう！



「現状把握」「現状分析」に、全国学力・学習状況調査を活用してください！

授業改善に活用

- 問題を解いてください
→子どもに求められている力が明確になります
- 「誤答分析」をしてください
→子どもの理解の状況が把握できます
→教師に求められていることが明確になります
- 授業改善につなげてください
→子どもに求められる力が身に付きます

校内研究に活用

- 全員で誤答分析をしてください
→数値的に低い問題等、課題のある問題を全員で扱うことで、研究の方向を共通理解できます
- 校内研究の見直しに活用してください
→学テの課題と年度当初に想定した課題を比較することで、校内研究の進め方を再検討できます



授業も校内研究も「不断の見直し」が重要

教育課程企画特別部会の「論点整理」にあるように、教員自身が自らの指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められています。

授業研究会の成果を、日々の授業に生かし、授業改善に取り組みましょう。